

1 学校の教育目標

「豊かな人間性をもち、自ら学び きたえる児童の育成」

2 学校経営ビジョン

ふるさとを愛し、自分に自信と誇りをもって、将来に向かって力強く「生き抜いていく力」を身に付けた児童を育成する。～『子どもが元気、職員が元気、保護者も地域も元気』～

3 今年度の重点目標

<p>1 授業力（指導技術）の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 能動的で主体的な授業 <ul style="list-style-type: none"> ア 子どもの能動的な学び イ 全員が分かる、できる授業 ② 思考力の育成 <ul style="list-style-type: none"> ア 考えを伝える、受けとめる力 ③ 校時程・学校行事の見直し <ul style="list-style-type: none"> ア 授業時数の確保と完全実施 イ コロナ感染症対策の実施 	<p>2 基本的な生活習慣の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ④ 自他を思いやる言動 <ul style="list-style-type: none"> ア 一人一人のニーズに応じた指導・支援 ⑤ いじめ根絶への取組 <ul style="list-style-type: none"> ア すこやか会議の充実 ⑥ 生活習慣と規範意識の向上 <ul style="list-style-type: none"> ア 無言清掃、無言配膳 イ 時と場を考えた挨拶の実施
<p>3 自他の安全と体力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑦ 危機管理能力の育成 <ul style="list-style-type: none"> ア 交通安全や災害等の安全危機管理意識の高揚 ⑧ 体力と健康増進 <ul style="list-style-type: none"> ア 体力向上プランによる体力向上 イ 健康・安全教育の推進 ウ 食に関する指導の充実 	<p>4 地域・家庭との連携による学校力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑨ 地域と学校の連携 <ul style="list-style-type: none"> ア 社会福祉協議会との連携 ⑩ 開かれた学校づくり <ul style="list-style-type: none"> ア 情報発信と情報の共有 ⑪ キャリア教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> ア キャリア教育の推進等

4 評価基準について

5：非常に良い状況 4：比較的良い状況 3：標準的な状況 2：改善の余地がある状況 1：改善が必要な状況

5 評価及び評価委員のご意見

重点目標	方策及びゴールイメージ	自己評価	外部評価				
			保護者の評価	評価委員の評価			
				評価	ご意見等		
1 授業力（指導技術）の向上	①能動的で主体的な授業	相互参観など、実践的な校内研修の充実を図ることで、「全員が分かる、できる」子どもが主役の授業づくりの実現につなげている。	3.6	3.5	3.8	3.6 4 4 4 3 3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 突然の休業であったが、相互参観など、達成感のある取組がなされている。 ○ 児童の興味・関心を引き出し、主体的に学ぶ児童を育てる工夫が大切である。 ○ 宿題に取り組む姿勢が意欲的・自主的でじっくりと考える児童が増えてきた。 ○ 全員が分かる・できる授業の実現は難しいが、個別の指導の充実が大切である。 ○ それぞれの先生ごとに特色ある授業を行ってほしい。 ○ 宿題の量や書き方など、ルールを統一を図ってほしい。 ○ ICT機器の活用による授業改善について研修を深めてほしい。 ○ ペア学習やグループ学習など学習形態の工夫がされていることが参観授業からわかった。 ○ コロナ感染症により授業時数の不足や学校行事の中止等の影響があったが、コロナ対策を行いながら、やれる範囲でやるべき指導をすることができている。 ○ 学校行事はできるだけ簡単にし、授業中心の展開にしてほしい。 ○ 校時程の見直しで良い方に向かったのであればよかった。 ○ 校時程の見直しの成果や課題を明確にしておく必要がある。
	②思考力の育成	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を進めることで、児童の「考えを伝える、受けとめる力」を育てている。	3.1				
	③校時程・学校行事の見直し	コロナ感染症対策を進めながら、新校時程の試行や行事等の精選を行うことで、授業時数の確保と学習内容の完全実施に努めている。	3.9				
2 基本的生活習慣の育成	④自他を思いやる言動	特別支援教育の視点を踏まえた一人一人のニーズに応じた指導・支援を充実させることで、学級集団の質的向上を図り、温かな人間関係を構築することができている。	3.6	3.5	3.6	3.5 4 4 4 4 3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人一人の特性に応じた指導（特別支援教育）の充実になお一層取り組んでほしい。 ○ 「しつけ」は、学校全体で取り組んでほしい。 ○ 全職員の共通理解のもと、個別の支援・指導の充実を図ってほしい。 ○ 「ありがとうカード」の取組はとてもよいアイデアだと思う。 ○ 生徒指導では、職員間での情報交換・共有を図り、素早い対応をお願いする。 ○ 進級・進学時には、児童生徒の情報等しっかり引き継ぎを行ってほしい。 ○ いじめにつながりかねない言動も見られる。さらなる指導の充実をお願いしたい。 ○ 基本的には家庭での教育力が支えとなる項目であるが、コロナに関する差別の問題等もあり、学校としての指導も大切である。 ○ 西っ子アンケートの継続が児童の安心で安定した心の成長につながっている。
	⑤いじめ根絶への取組	いじめ防止基本方針に従い、全職員がチームとなり組織的な対応をするとともに家庭、地域、関係機関等と連携していじめ防止に取り組んでいる。	3.9				

	⑥生活習慣と規範意識の向上	無言清掃や無言配膳、あいさつ・会釈など、時と場に応じた言動を身に付けた児童を育成している。	3.0				○ いじめや差別事象については、特に耳に入っていない。保護者の評価も高いことから、学校においてしっかりと指導していると考えられる。
3 自他の安全と体力向上	⑦危機管理能力の育成	意図的・計画的な安全教育の実施を通して、交通安全や災害等において、児童自らが状況を適切に判断し、回避しようとする安全危機管理意識を高めている。	3.5	3.4	4.0	3.4 4 4 4 3 3	○ 一人一人が自分の命を守る力を身に付けられるよう指導の継続をお願いしたい。 ○ 保護者のコメントで放課後の過ごし方に関するものがあつたが、放課後については、家庭でもよく話し合ってもらいたいものだと感じた ○ 給食の残食が減っていることから食に関する指導の充実が図られていると思われる。 ○ 活動の自粛で子どもたちの体力も落ちていると思う。コロナが落ち着いたら体力強化に力を入れてほしい。 ○ 体力向上は継続した指導の連続が不可欠である。 ○ 夏季の水筒持参やランドセルをリュックにと子ども達を守る対策が講じられてよかった。マスクや換気で、教室は乾燥気味だった。冬季も水筒があるとよいかもかもしれない。
	⑧体力と健康増進	体力向上プランによる計画的な指導や食に関する指導、感染症対策に係る指導を通して、児童の体力向上と健康的な生活様式を身に付けている。	3.2				
4 地域・家庭との連携による学校力の向上	⑨地域と学校の連携	社会福祉協議会や地域の関係諸機関と連携することで、地域と連携した学校教育の充実につなげている。	2.9	2.9	3.7	3 3 3 3 4 3	○ コロナ感染症の影響により、教育見守りボランティアの活動ができなかったことが残念である。 ○ 社会福祉協議会を積極的に活用して連携を図ってほしい。 ○ 感染症の影響で読み聞かせ等ができなかったことで、学校が地域にもたらす活力の大きさを改めて気付かされた。 ○ 保護者のアンケートの回答率が高いことに敬意を表したい。 ○ コロナに関することなど、その都度、必要な案内があつた。まちコミメールの活用も便利でよいと思う。 ○ 時間のない中に通信等便りを作成されたのに、いつまでもランドセルの中にある児童もいる。保護者は、メールの方が関心があるのではないかと。 ○ 毎月、学校通信を届けてくださり学校の様子がよく分かりました。ありがとうございました。 ○ コロナ禍においても生目地区の「史跡探訪」など、活動の工夫・充実が図られている。
	⑩開かれた学校づくり	○ 学校通信や学級通信、学校ホームページ、まちコミメール等を通して、家庭や地域に積極的に情報を発信し、開かれた学校づくりにつなげている。	2.9				
	⑪キャリア教育の充実	○ キャリア教育の視点を踏まえた教科・領域等の指導を通して、児童一人一人のキャリア発達を促している。	3.1				

6 自己評価及び保護者・学校関係者の評価についての考察

1 授業力（指導技術）の向上	① 能動的で主体的な授業	○ 教師同士が互いの授業を見せ合う相互参観を全職員2回ずつ実施することができた。このことが「全員が分かる、できる」子どもが主役の授業づくりについて互いに学ぶ機会となり、日々の授業改善につながっている。
	② 思考力の育成	○ コロナ感染症対策もあり、グループ活動や話し合い活動等が思うようにできない状況もあるが、タブレット端末など、ICT機器を活用することによって児童の「考えを伝える、受けとめる力」の向上につながる学習活動の工夫に取り組んでいる。今後、ギガスクール構想に対応し、タブレット端末などのICT機器の効果的な活用などについて研修を深めていきたい。
	③ 校時程・学校行事の見直し	○ 給食前の5時間授業の新校時程を試行し、その成果と課題を検証しているところである。この新校時程によって、コロナ休業で失われた授業時間の確保が図られるとともに放課後の時間にゆとりが生まれ、教師の授業準備や研修時間を確保できる利点がある。保護者からも放課後の自宅での学習時間が確保でき、家庭学習の充実につながったとの意見が聞かれた。また、児童と教師の時間管理の意識が高まり、時計を見て行動することや教師の働き方改革にもつながっている。
2 基本的な生活習慣の育成	④ 自他を思いやる言動	○ 特別支援コーディネーターを中心に支援体制や関係機関との連携が十分に図られている。今後とも個別の指導計画を踏まえ、学年・学級の枠をこえて全職員で児童を見守っていく体制づくりに努めていきたい。 ○ 児童を見守る上で参考となる情報は、年度をまたいでもしっかりと伝達できるよう引継ぎ資料の整備と活用を丁寧に行っていきたい。
	⑤ いじめ根絶への取組	○ 毎月、教育相談（西っ子アンケート）を実施し、すこやか会議で報告・共有することで、学年・関係職員で協力して対応することにつながっている。 ○ 11月にいじめ根絶週間・人権集会を設定したことで、児童の相手への言葉かけの意識に良い変容が見られた。自己評価でも、「3.9」という比較的良好な結果が出ており、成果と手ごたえを感じている職員が多いようである。
	⑥ 生活習慣と規範意識の向上	○ 無言清掃が身に付き、集中して清掃活動に取り組む児童が多く見られる。コロナ感染症対策で、給食時間の無言配膳に取り組んでおり、落ち着いて食事をすることができている。 ○ 「走らない、さわがない、右側通行」のはさみ廊下歩行や相手より先にあいさつする「さきどりあいさつ」が課題であり、今後、学校全体で指導を徹底していきたい。
3 体力的な安全と	⑦ 危機管理能力の育成	○ 避難訓練等、計画的に実施することができた。保護者への「引き渡し訓練」の引き渡し方法を変更したり、非常階段を使った避難方法を訓練したりと実情に合わせて取組の改善を図っている。一方で、南海トラフ地震に備え、非常用設備や災害備蓄品の内容や使用方法については、継続的に研修や訓練を行う必要がある。 ○ 地域の方々の見守りもあり、交通事故の報告はない。今後も登校班会や日常指導で児童の安全に対する意識を高めていきたい。

	⑧ 体力と健康増進	<p>○ 実技研修を実施し、「体力向上プラン」による共通実践ができるようにしたことで、体育の授業における運動量確保につながっている。熱中症対策として、のぼり旗による昼休みの過ごし方の指導や水筒持参の呼びかけなどに取り組んだ。また、コロナ感染症対策として、消毒作業、体温チェック、手洗い・うがい・換気に取り組んでいる。</p> <p>○ 食に関する指導として、学級活動での栄養指導、給食当番チェック、地産地消メニューの大型掲示物作成や放送での説明、残菜0コンクールなどに取り組んでおり、食を通した「体力と健康の増進」を図っている。この項目は、保護者から一番高い評価（4.0）をいただいている。</p>
4 地域・家庭との連携による学校力の向上	⑨ 地域と学校の連携	<p>○ 社会福祉協議会や学校支援ボランティア、保育所との連携など、コロナ感染症の影響で従来のような積極的な連携が難しく、評価も低い結果となった。（自己評価2.9）そのような中でも「総合的な学習の時間」の福祉体験学習において、市社会福祉協議会と連携し、講師や地域の方々との繋がりをもつことができた。</p> <p>○ 交差点などで地域の方が交通指導をしてくださっていることで安全な登下校につながっている。また、西小っ子クラブや児童クラブの放課後の児童見守り活動により安心して安全な時間を過ごすことができている。いつもありがとうございます。</p>
	⑩ 開かれた学校づくり	<p>○ 自己評価（2.9）、保護者の評価（3.7）、学校関係者（3.2）であり、他の項目と比べるとやや低い評価であり、本校の課題の一つとなっている。そこで、学校ホームページについては、保護者の必要としている情報（学校行事の計画やコロナ感染症情報など）を掲載するなど、さらなる充実を図っていきたい。「学級通信」の発行についても学級で頻度に差があるので、タイミングのよい発信を心がけながら今後とも積極的な情報提供に努めていききたい。</p>
	⑪ キャリア教育の充実	<p>○ キャリアパスポートについての校内研修を行い、準備を進めている。キャリアパスポートについては、次年度から活用し、小中高を見通してキャリア教育を充実させていくことが求められる。学級活動におけるキャリア教育の具体的な指導が要となるので、次年度の本格的な運用に向けて、年間指導計画を整備したり、校内研修を計画したりして準備を進め、全教育活動を通した児童のキャリア発達を促す指導体制を構築していききたい。</p>